

SHOW HEY シネマルーム

★★★

スウィートノベンダー

2001 (平成13) 年11月3日鑑賞

Data

監督: パット・オコナー

出演: キアヌ・リーブス/シャーリーズ・セロン

👁️👁️ みどころ

2001年唯一のラブストーリーと銘うった作品。11月だけの「期間限定の恋人」は本当か？ストーリー展開に多少の無理あり・・・。

———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ————

<期間限定の恋人>

「2001年秋、唯一のラブストーリー」がうたい文句のこの映画。11月のおとずれと共に早速観にいった。映画館は結構満杯で、入口まで列をつくって並んでいるという状態。

予告編で、この映画のテーマは、①彼女の命はあと数カ月しかないこと ②彼女はそれを隠して11月中だけという「期間限定」の恋人との同居生活を願っていること、であることはわかっていた。従ってこの映画の楽しみは、最初から、このストーリーをいかに組み立てて涙を流すラブストーリーに仕上げているかという点に尽きていた。

主人公の女性サラ (シャーリーズ・セロン) は、サンフランシスコの小さな住宅地のアパートに住んでいる。このサラの「11月の恋人」としてピックアップされたのが、広告会社に勤める若手エリートで仕事中毒人間のネルソン (キアヌ・リーブス)。2人は運転免許の更新に出かけた試験場で出会う。サラからのモーションのかけかたは、はっきり言ってかなりヘン、そして唐突。試験場でのカンニングが見つかってサラが処分されたことに多少の良心の呵責を感じているネルソンに対して、サラは代行運転の要求をはじめ、ストーリーまがいの行動で11月だけの期間限定の恋人を提案する。そのセリフは「私には問

題を抱えた男性を救う特殊能力があるの」という思わせぶりなもの。

<期間限定のむずかしさ>

男たるもの、誰でも「タダほど安いものはない」のであれば当然飛びつくが、「うまい話しにはウラがある」と、世間の教養ある一流の男性は教えこまれている。私も含めて・・・。

可愛い女の子から、1カ月だけ一緒に私のアパートで生活しよう。条件は、その間一切仕事をしないでずっと私と一緒にいてくれることだけ。もちろん金銭的要求など全くなし。といわれても、そうそう信じるバカな男はいない。私も含めて・・・。

しかし映画は、不自然かつ無茶苦茶とも思えるサラからのモーションに対して、ネルソンは何回も拒絶を重ねながら、結局はOKしてしまう。

そして仕事中毒のネルソンが見事にヘンシン！完全に彼女に恋をし、彼女のためならば仕事なんかどうでもいい、というところまで到達してしまった。

そこで映画は残酷にも、サラがガンであること、そしてあと数カ月の命であることをネルソンにバラしてしまう。

サラも1人で暮らすようになる前は、実は姉妹で大成功をおさめた会社にいたこと、そしてサラの友人で隣に住むゲイのチャズが存在、この2つがこの映画の伏線としてチラチラと出てくるが、これが本筋の展開には大きな影響を与えていない。

映画のストーリーは、あくまでサラとネルソンとのやりとりをずっと追っていき、最後は元気なサラの思い出を残して、11月の終わりと共に2人は別れて、ジ・エンド。

<ラブストーリーのむずかしさ>

何となく納得できるようでできないようで・・・。涙を流すシーンもあるようでないようで・・・。

恋愛ストーリーとしては、やはりちょっと無理につくりすぎているのではないか、と思わざるをえない。サラを演じたシャーリーズ・セロンはキュートな魅力にあふれた熱演。相棒のキアヌ・リーブスもそれなりに演じているが、とにかく話のつくりがちよっと無理があるため、率直に喜んだり悲しんだりできない面がある。

従って、2001年唯一のラブストーリーとしてはかなり不満が残る作品。もつとも、覚えやすいメロディーで淡々とバックに流れる音楽はグッド。

2001（平成13）年11月記